

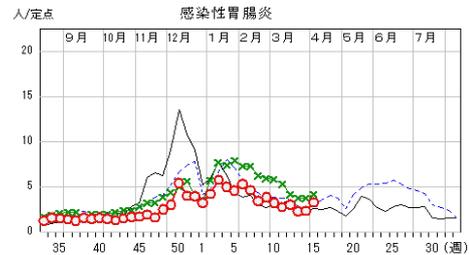
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第15週 2023年4月10日（月）～ 2023年4月16日（日） 2023年4月20日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

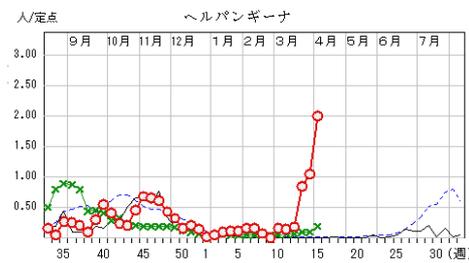
（1）感染性胃腸炎

第15週の報告数は144人で、前週より40人多く、定点当たりの報告数は3.27であった。
年齢別では、4歳（26人）、1歳（24人）、5歳（22人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（8.14）、県南保健所（5.00）、県北保健所（5.00）であった。



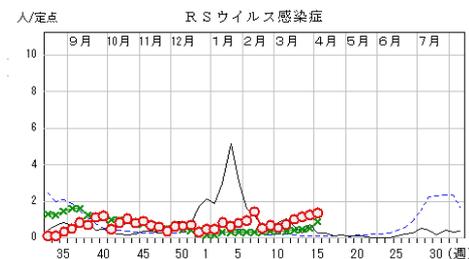
（2）ヘルパンギーナ

第15週の報告数は88人で、前週より42人多く、定点当たりの報告数は2.00であった。
年齢別では、3歳（21人）、1歳（20人）、2歳（16人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（12.00）、佐世保市保健所（6.33）であった。



（3）RSウイルス感染症

第15週の報告数は60人で、前週より5人多く、定点当たりの報告数は1.36であった。
年齢別では、1歳（28人）、1歳未満（15人）、2歳（13人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（3.20）、西彼保健所（2.50）、壱岐保健所（2.00）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

☆トピックス・季節情報

【感染性胃腸炎】

第15週の報告数は144人で、前週より40人多く、定点当たりの報告数は3.27でした。地区別に見ると県央地区（8.14）、県南および県北彼地区（5.00）は他の地区より多くなっています。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【ヘルパンギーナ】

第15週の報告数は、前週より42人増加して88人となり、定点当たりの報告数は2.00でした。地区別にみると、県北地区（12.00）、佐世保地区（6.33）は他の地区より多く、警報レベル開始基準値「6.0」を超えていますので、今後も動向に注意が必要です。

本疾患は、発熱と口腔粘膜に現れる水泡性発疹を特徴とし、夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎です。4歳以下の乳幼児が中心で、例年6月から7月に患者数のピークが認められます。

主な原因であるエンテロウイルスの感染経路は、飛沫感染と患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）です。便からは1週間から4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ます。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

【RSウイルス感染症】

第15週の報告数は60人で、前週より5人多く、定点当たりの報告数は1.36でした。地区別にみると、長崎地区（3.20）、西彼地区（2.50）、壱岐地区（2.00）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

☆トピックス：ヘルパンギーナに注意しましょう

ヘルパンギーナの第15週の報告数は、前週より42人増加して88人となり、定点当たりの報告数は2.00でした。全国で2番目に多くなっています。地区別にみると、県北地区（12.00）、佐世保地区（6.33）が多く、警報レベル開始基準値「6.0」を超えています。

ヘルパンギーナは、手足口病とともに夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎で、例年6から7月に患者のピークが認められます。発熱と口腔粘膜に現れる水泡性発疹を特徴とし、基本的に予後良好ですが、場合によっては髄膜炎や脳炎などの重篤な合併症を併発することもあります。

主な原因であるエンテロウイルスは、せきやくしゃみを介した飛沫感染と、患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）により広がっていきます。特に便からは1～4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ますので、オムツ交換や排便後の手洗いの徹底が必要です。主として乳幼児や小児に流行するため、保護者の方はお子さんの手洗いと体調管理に気をつけてあげましょう。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

長崎県におけるヘルパンギーナ報告数の推移

